

【本日ご意見をいただきたい項目】

（1）現地建替と甍移転の比較について

（2）奈良県立美術館の活動方針について

(1) 現地建替と薦移転の比較について

<令和7年度 第1回 奈良県文化創造ギャザリングでの議論>

- 現状立地で整備する場合の課題を踏まえ、移転案として複数候補地を事務局より提示
- 移転案の中では、奈良春日野国際フォーラム 薦への移転が最適とのご意見

(第1回ギャザリングでの薦移転に関するご意見)

- ・国立博物館等がある奈良公園内にあることが重要
- ・奈良公園内の社寺と連携することで注目を集めることができる
- ・仮に移転する場合の候補地を3つ示しているが、奈良春日野国際フォーラムは景色も良いので、この場所が最有力ではないか
- ・文化財包蔵地であり新たに開発するにはハードルが高いので、仮に移転とするのであれば近隣の社寺や文化施設と連携しやすい奈良春日野国際フォーラムの場所が最適



本日の第2回ギャザリングにおいて、現在地での整備と薦への移転について比較検討を行う

■現在の美術館敷地

住 所：奈良市登大路町10-6他

財産区分：行政財産

アクセス：

最寄り駅（近鉄奈良駅）から徒歩5分

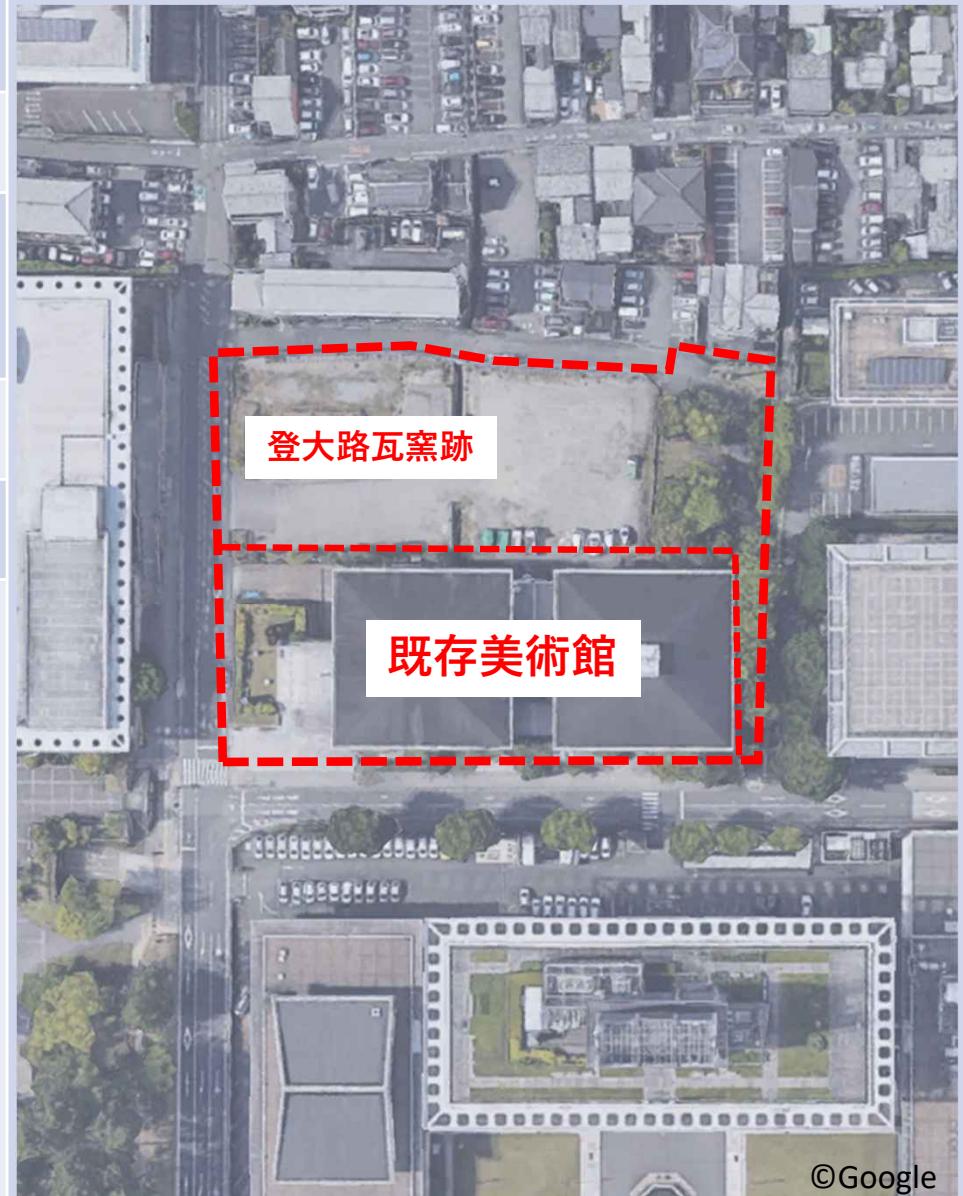
最寄りバス停（県庁前）から徒歩4分

敷地面積：8,771m²（登大路瓦窯跡敷地含/水路除く）

既存建物延床面積：5,451m²

敷地にかかる法規制等：

- 市街化調整区域
(容積率200%／建ぺい率40%)
- 準防火地域
(延床1,500m²以上は主要構造部を耐火構造)
- 第5種風致地区
(春日山風致地区／ゾーン9／高さ規制15m)
- 歴史的な風土景観区域
(建物配置・規模、形態・意匠、色彩・材料への配慮等)
- ハザードマップ／該当なし



■現在の美術館 参考写真（1）



*地階：荷解室、書庫、収蔵庫、機械室等



外観（正面エントランス）



エントランスホール



展示室



ギャラリー

クレジット：大阪芸術大学芸術学部アートサイエンス
学科との連携事業



トラックヤード

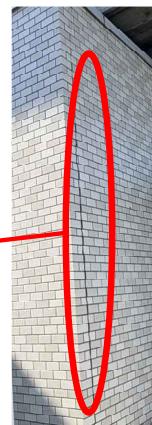
■現在の美術館 参考写真（2）



▲本館と新館の接続部



▲クラック発生箇所



◀鉄筋が露出（基礎部分）



◀雨漏り発生箇所



◀鉄筋が露出（トラックヤード）

〈既存施設の現地改修について〉

既存施設の建築は**基盤機能が不十分**で、増築や改修による解消は難しい。

- ・現施設は応急耐震工事のみ実施しており、長期使用するには本格的な耐震化が必要
- ・躯体の老朽化により、本館と新館との接続部を中心に、結露、雨漏り等が発生
→湿気等は美術品への影響が甚大であり、改善が必要だが、改修による抜本的な解決は難しい。

→ 長期的に美術館として幅広く利活用するには、
現在地での整備の場合、既存施設の改修ではなく、新築建替が妥当

■現在の甍（奈良春日野国際フォーラム）敷地

住 所：奈良市春日野町101

財産区分：行政財産

アクセス：

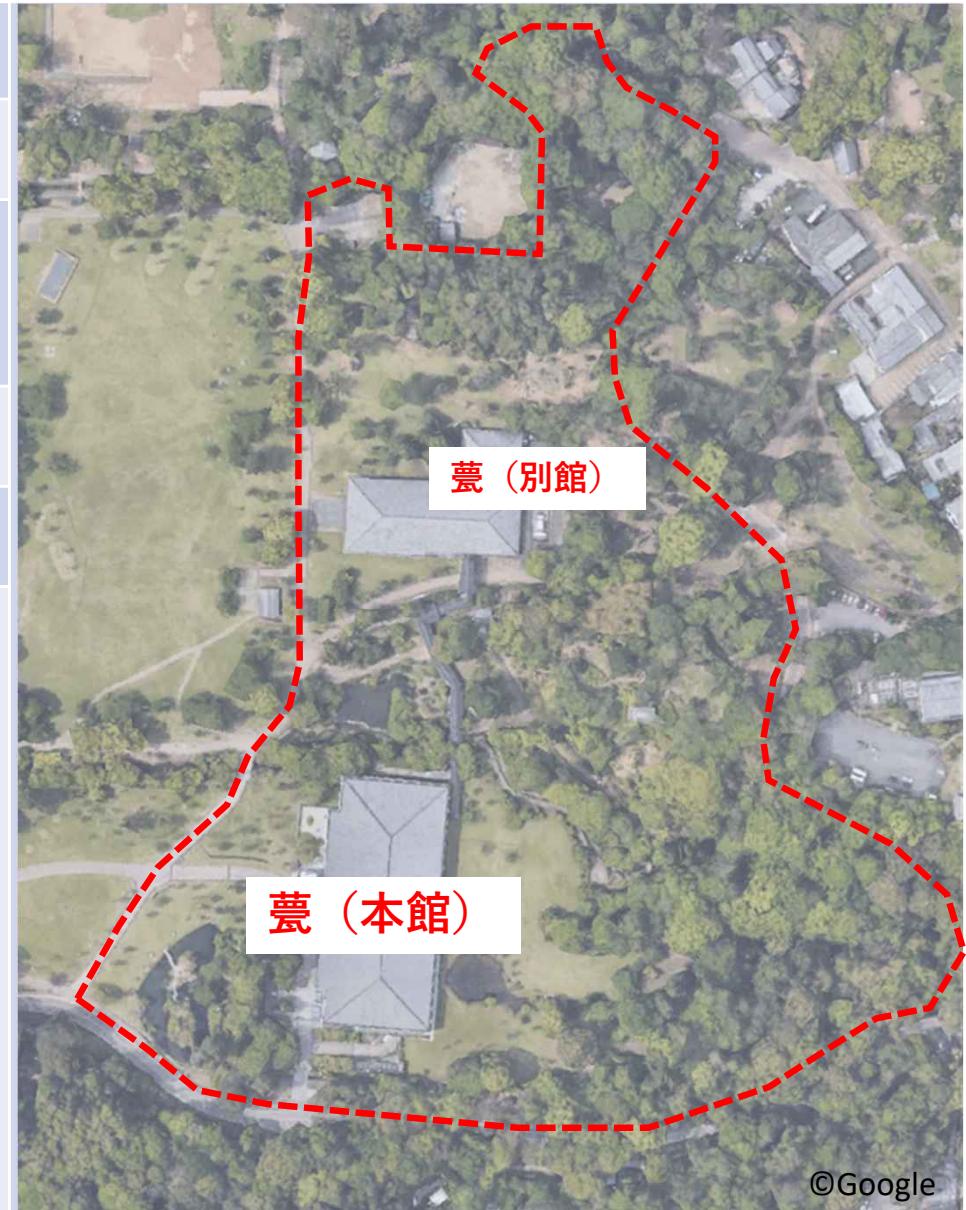
最寄り駅（近鉄奈良駅）から徒歩20分（近鉄奈良駅よりバス有、最寄りバス停から徒歩1分）

敷地面積：48,432m²

既存建物延床面積：本館 9,089m²／別館 1,984m²

敷地にかかる法規制等：

- ・文化財保護法
(国指定名勝、国指定史跡（一部）)
- ・市街化調整区域
- ・都市計画公園
- ・第1種風致地区（春日山風致地区／ゾーン1／高さ規制8m、建ぺい率20%以下）
- ・歴史的風土特別保存地区（春日山特別保存地区）、歴史的風土保存区域（春日山保存地区）
歴史拠点景観区域
- ・ハザードマップ／土砂災害警戒区域(土石流)
に敷地の一部が該当



©Google

■現在の薺（本館）参考写真（1）



※地階：搬出入口、駐車場、厨房、機械室等



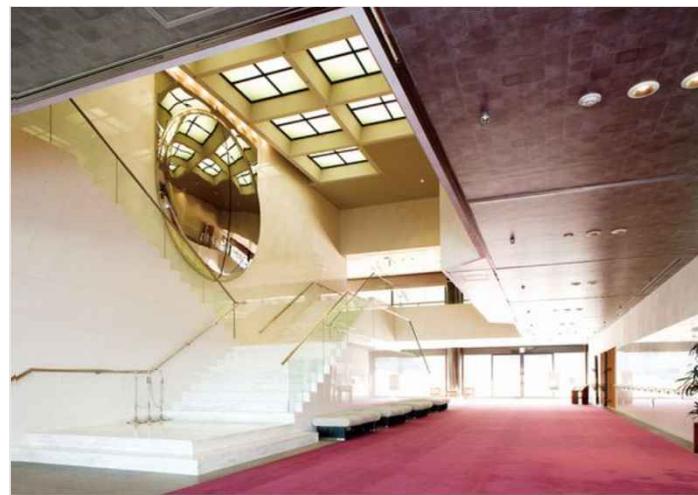
外観（正面エントランス側）



外観（庭園側より）



エントランスホール



吹きぬけ階段



能楽ホール

■現在の図（本館）参考写真（2）



会議室1・2



応接室



会議室3・4



レセプションホール1



小会議室1

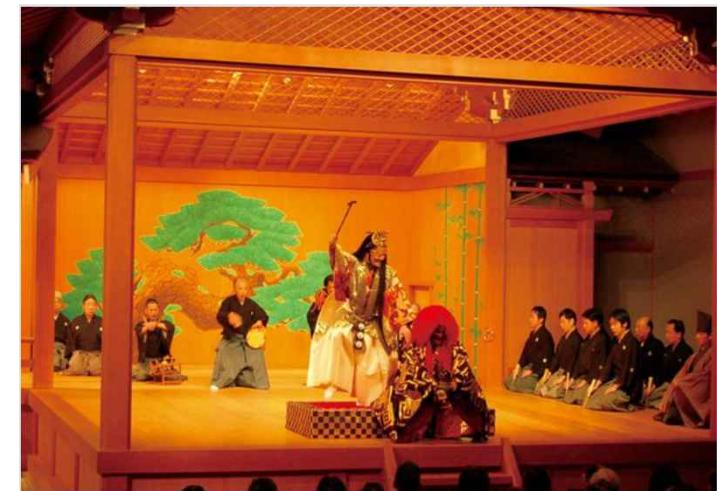
■現在の甍（本館）参考活動写真（3）



会議



世界遺産フォーラム



演能会



庭園コンサート



華道展示



ファッションショー

■現在の棟（別館）参考写真

別館1Fフロアマップ



別館2Fフロアマップ



外観（メインエントランス）



外観



会議室 5



会議室 7



レセプションホール 2

■現地建替と甍移転の比較（1／2）

	現地建替 (現美術館建物を除却し新たに施設を建設)	甍移転 (既存建物(甍本館、別館)を新美術館に改修)
敷地条件等による整備可能な施設規模	延面積 約7,140m²～約9,660m² <ul style="list-style-type: none"> ・上記面積以上の増築不可 ・簡易試算による理論値 <p style="text-align: center;"> 約7,140m² 約9,660m² → 2層構造想定 → 3層構造想定 天井高5m以上 天井高4m未満 </p> <ul style="list-style-type: none"> ・高さ制限解除の場合、延面積約16,000m²確保可能 	延面積 約11,000m² (本館、別館含む) <ul style="list-style-type: none"> ・上記面積以上の増築可 ・能楽ホール約855m²を含む
立地環境・アクセス	近鉄奈良駅より 徒歩5分	近鉄奈良駅より 徒歩20分
	<ul style="list-style-type: none"> ・登大路瓦窯跡の整備計画との調整（施設配置や整備時期の整理）が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地の一部が土砂災害警戒区域（土石流）に該当しており、大雨時の対応（来館者導線、収蔵品の安全対策等）について検討が必要
整備工程・閉館期間	美術館閉館期間が長期（6年以上） <ul style="list-style-type: none"> ・除却の建設工程が発生、除却時点から閉館必要 ・躯体コンクリート新設に伴う、枯らし期間が発生（打設後2夏） 	美術館閉館期間が短期（2～3年程度） <ul style="list-style-type: none"> ・新美術館の完成まで、現美術館を開館可能 ・新築工事と比べ、工事期間を短縮できる可能性 ・既存躯体活用のため、枯らし期間の短縮が可能

■現地建替と甍移転の比較（2／2）

	現地建替 (現美術館建物を除却し新たに施設を建設)	甍移転 (既存建物（甍本館、別館）を新美術館に改修)
	施設整備費：新築より改修の方が安価	
必要コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・除却費：必要 ・新築設計工事費 　躯体新築工事 　建物全ての材料費　など 	<ul style="list-style-type: none"> ・除却費：不要 ・構造補強等を含む改修費 　既存躯体を活用 　建物一部の材料費　など ・本来の建設目的と異なる使用のため、基本計画段階で構造計算や動線の再考が必要
	工事期間中の収蔵資料の維持管理コスト：移転の方が安価	
	<ul style="list-style-type: none"> ・作品移送費：2回分 （現美術館→保管場所、保管場所→新美術館） ・工事期間中の保管費用が別途必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品移送費：1回分 （現美術館→改修後甍） ・工事期間中の保管は既存施設で実施
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・登大路瓦窯跡の活用可能性 	<ul style="list-style-type: none"> ・能楽ホールの活用可能性 ・県有園地（浮雲園地等）の活用可能性

(2) 奈良県立美術館の活動方針について

前回までの検討

1. 基本コンセプト

地域に根ざし、世界に開かれた美術館

2. 美術館整備の目的

- より多くの県民の創造力を刺激し、奈良の文化的なポテンシャルを高める
- 奈良県の芸術文化の魅力を発信し、奈良県のブランド力の向上に寄与する
- 奈良県と多様な芸術文化の交流により、新たな芸術文化を生み出す
- 奈良県の文化施設連携の中核

3. 目指す方向性

・地域に根ざし



奈良県ゆかりの芸術文化に光を当てる

県民の芸術文化活動の場になる

・世界に開かれた



奈良県民が多様な芸術文化と出会う

奈良県の芸術文化を世界に発信する



基本コンセプトから具体的な活動内容につなげるため、
学芸員と議論し、「活動方針（案）」を作成

※活動方針の検討に先立ち、これから奈良県立美術館が果たすべき役割を、現在の現場感覚を踏まえて明確化

記録を記憶にし、未来の奈良県を想像し、創造する力を鍛える

■記録を記憶にし

奈良県立美術館は、地域の芸術や文化が表現された作品や資料を収集・保存しています。

そして、地域における芸術文化は常に生まれ続けています。この地で生まれた芸術文化を「記録」として保存し、「記憶」として伝えることをとおして、これらが現在・未来の人々にとって想像力の源泉となり、新たな創造性を発揮する場となることを目指します。

■未来の奈良県を想像し

奈良県立美術館は、作品や資料に込められた想いや物語を伝えることで、これから時代にふさわしい奈良県の姿を「想像し、未来へ向けたビジョンを描く力」を育む場となります。

これにより、地域の人々が次の時代を切り拓く力を得ることを目指します。

■創造する力を鍛える

奈良県立美術館は、芸術文化にふれることで人々の「創造する力」を育む場となります。展覧会や教育普及活動などの美術館の活動を通して、多様な表現や考え方につれ、自分や世界について主体的に考え、未来を創造する力を身につける機会を提供します。

この力は、個人の成長はもちろん、地域の活性化や新しい芸術文化の創出にもつながる大切な力です。

基本コンセプト



現場の感覚



活動方針

■ 4つの活動方針（案）

活動方針① 奈良県ゆかりの芸術文化に光を当てる美術館【調査研究、収集・保存】

奈良県立美術館は、地域の芸術や文化を映し出す作品や資料を収集・保存しています。これらの作品の調査・研究・修復・保存活動を通して、過去の豊かな芸術的営みを「記録」として未来につないでいきます。さらに、現在生み出される地域の芸術文化を調査し、収集・保存することを通して、奈良県の芸術文化の歴史を絶えることなく未来へつないでいきます。

活動方針② 県民が多様な芸術文化と出会う美術館【展示】

奈良県立美術館は、地域の芸術文化を形作るコレクションをはじめ、創造性を鍛えるための多様な芸術文化を紹介し、人々が広い視野を持って芸術文化に触れる機会を提供します。これにより、多様な価値観を理解し尊重しあう姿勢を身につけ、「未来の奈良県を想像する」ためのきっかけを得られるようになります。

活動方針③ 県民の芸術文化活動の拠点になる美術館【教育普及】

奈良県立美術館を、芸術文化をとおして自ら問いを立て考え方をつけるための「学びの拠点」とします。大人から子供まで、障害の有無を含め、国内外の様々な状況にある人たちが、創作活動や伝統文化の体験型ワークショップや対話型鑑賞などの、さまざまな教育普及活動に参画できるインクルーシブな美術館を目指します。こうした取り組みは、人々が単なる鑑賞者にとどまらず、自らの創造性を発揮することで、地域全体の文化力の底上げをし、地域の持続的な発展を支えることにつながります。

活動方針④ 奈良県の芸術文化を通じて世界につながる美術館【対話と連携】

奈良県立美術館は、地域の芸術文化の魅力を国内外に発信します。アウトリーチ活動やデジタルミュージアムなどをとおし、どこでも奈良県立美術館の資源を活用した体験に参加できる環境を整えます。このような活動をとおして、美術館が人と社会をつなぐ拠点となり、人々の文化的創造力がさらに高まる好循環を生み出します。

活動方針①

奈良県ゆかりの芸術文化に光を当てる美術館【調査研究、収集・保存】

収蔵資料の調査・研究

- ・吉川観方コレクション、大橋コレクション、由良コレクション、高畠グループ、田中一光等の既存の収蔵資料の継続的な調査・研究に加え、活動方針に沿った新たな作品収集・保存及びそれらの研究、発表を実施、収蔵資料の活用につなげる



吉川観方
コレクション



大橋コレクション



由良
コレクション



田中一光



高畠グループ

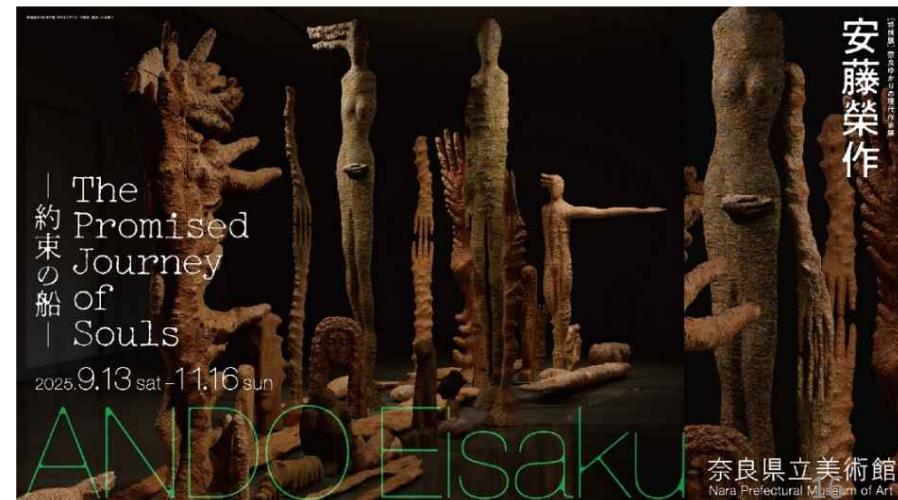
活動方針②

県民が多様な芸術文化と出会う美術館【展示】

収蔵資料や借用資料による多様な展示

- ・収蔵資料をはじめとする奈良県ゆかりの作品や世界の多様な美術等の展示を通して、鑑賞者に、奈良県の芸術文化を伝えるとともに、感性を刺激し新たな視野の獲得や創造性の向上に資するような体験を提供する

特別展・奈良ゆかりの現代作家展 安藤榮作－約束の船－
2025（令和7）年9月13日（土）－11月16日（日）



活動方針③ 県民の芸術文化活動の拠点になる美術館【教育普及】

インクルーシブな教育普及事業

- ・多様な人に対して、より深く芸術文化に親しむ機会を提供するため、多様なプログラムを開発する

[展開例]

- ・対話型鑑賞
- ・さわれる展示
- ・多様な人々に対する創作活動の場や機会の提供
- ・体験型ワークショップ



活動方針④ 奈良県の芸術文化を通じて世界につながる美術館【対話と連携】

美術館の文化的資源の活用

- ・奈良県立美術館が有する美術作品や事業活動成果を活用するための基盤を構築する
- ・地域と連携し、社会的な課題や問題の解決に向けた取り組みを開発する

[展開例]

- ・収蔵資料のデジタルアーカイブ構築
- ・美術館事業全体のアーカイブ化と多様な活用の促進
- ・学校連携事業（出前授業、アーティストとの共同制作等）

